



物 < 人 < AI となる時代 (人手不足の次に来るもの)

(12月のごあいさつ)
平成29年12月1日(金)

ドラッカーが「IBM 物語」の中で、「**人的資源**、すなわち人間こそ、企業に託されたもののうち、**最も大きな潜在力を持つ資源**である。」と述べている。また、同時に**最も活用されていない資源は人**であるとも言っている。現在も将来も、人の働きに応える報酬を支払い、その能力を向上させ続けることが企業の課題であり、責任である。収益性向上と企業の継続のカギは人である。

まず、**企業は物的設備を準備**することが必要である。そして、それをいかに動かすかは、人の働きにかかっている。だから企業にとって**最重要な資源は人**であるという論は正しい。しかし今、人的資源のとらえ方に変化が起きている。その**兆候**がすでに現われているのは第三世代の段階にあるといわれている**AI(人工知能)**である。AIの課題は、**認識と言語と運動**だと言われてきた。しかし、防災や医療での**認識系技術**の実現、小売業における**IC タグやセンサーやカメラによる認識**の実用化が進み、**言語系**は多言語の翻訳などコンピューターによる言語の意味・理解の可能性が目の前に来ている。**運動系**は、建設や農業の作業の機械化・ロボットの活用が進みつつある。AIの発達は、人手不足を補うが、それとともに**技術的失業を招来**する原因ともなる。

日産等の無資格検査問題は、品質に対する企業の責任感と人材育成の努力が欠けていたということである。無資格者に依存することは、人的能力と待遇の向上という点の先のぼしであり、そのうえ恒常的な隠蔽行為は、短期的な営利と効率性の向上のみに関心を払った将来を考えない低いレベルの経営である。報道によれば、「**工場の独立性を重んじ**」、**本社は把握していなかった**と述べているが、工場の独立性を重んじることと品質の責任を果すこととどちらが先で重要かは、誰にでも判断できることである。このような言い方は、品質をなおざりにして工場現場へ責任を押し付けていることになる。

AIは、労働に代替し、経済構造に変革をもたらす。その前に人への信頼と尊重を確立する必要がある。今後ますます、AIは高度化し、**物 < 人 < AIの不等式**が成立する時代は近く、企業と人はそれに備えなければならない。

物と人とAIの関係の将来こそ、今後最も意味深い、最重要の課題である。

デジタル革命や深層学習の潜在的な可能性が実現すると、**人の能力は大きく選別**され、AIを超える価値判断ができる人、AIに無い人間的感覚を持てる人、AIをマネジメントできる人など、**人への期待**は益々高まるであろう。